

## 安心して学校生活を送ることができる場の確立

### 不登校児童の状況

対象児童は、小学校6年生である。きょうだいの影響から登校を渋るようになった。校内別室を約3年間利用しており、次第に、定期的なペースで登校することができるようになった。保護者も、当該児童の自己選択・自己決定を尊重している。

### 具体的な取組

#### ○校内別室の利用

校内別室が当該児童にとって、安心できる場となっている。校内別室利用時には、自分のペースで学習に取り組むことができた。

給食の配膳や休み時間等を活用し、当該児童の在籍学級の他の児童が校内別室を訪問することで、当該児童との交流を図ることができた。

#### ○オンラインでの学習参加支援

当該児童の希望から、算数を中心に、一人1台端末を活用して、校内別室と教室をつないでオンラインで学習することができようにした。

その後、算数以外の教科においても、オンラインで授業に参加できるように、環境整備をした。

#### ○無理のない場所からの授業参加

オンラインでの参加方法に加え、いつでも教室あるいは無理のない場所から学習に参加できる環境を整えた。学習参加方法については、当該児童と丁寧に対話し、当該児童の自己選択・自己決定を尊重して決めることができるようにした。

#### ○つながりを切らさないように

毎日、当該児童に言葉をかける等、短い時間でも、担任とコミュニケーションを図るようにした。この取組によって、当該児童は、校内別室でも教室でも安心して学校生活を送ることができた。

保護者と綿密に当該児童の様子を伝える等、定期的に情報共有を行った。

### 成果

昨年度は、ほとんど登校することがなかったが、今年度は週の2・3日程度登校する等、登校日数が大幅に増加した。登校できる日については、午前8時半頃に校内別室に登校するとともに、その日の授業時数に合わせて、過ごすことができている。

### 課題

引き続き、当該児童の思いを大切にしながら、校内別室以外の場所での過ごし方や他者との関わりについて当該児童と一緒に考えていく。